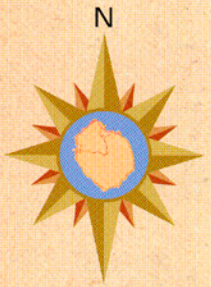
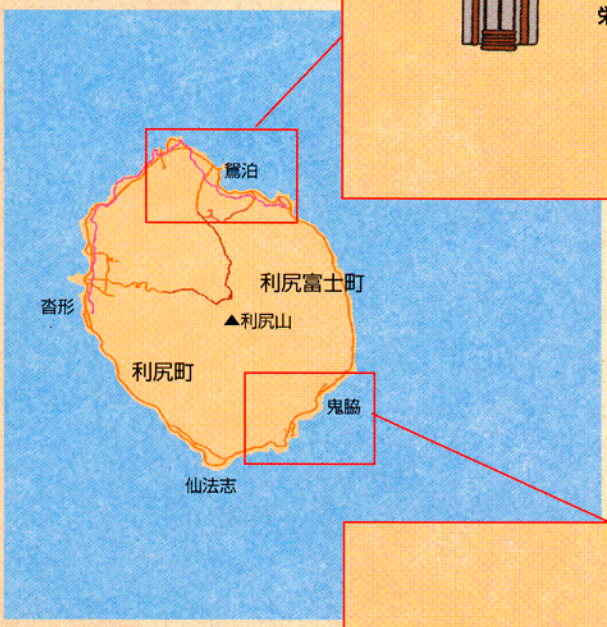
りしりふじの文化財 20

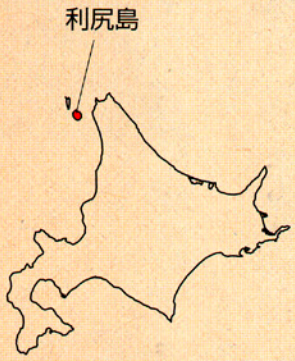
Cultural property in RISHIRI FUJI Town

利尻富士町教育委員会

利尻富士町　文化財マップ







表紙の地図：利尻島全図（明治35年、小樽・田尻與吉）

アイヌの人びとによって、リイシリと呼ばれていた利尻島。高い島・海に浮かぶ山を表わすその響きは、まさに島そのものを映し出しています。山と海が織りなす四季のうつりかわりのなかで、人から人へ脈々と受け継がれてきた日々の歴史、まちをつくりあげてきた文化の息吹が、今なおこの島には生き続けています。「りしりふじの文化財」は、利尻富士町に所在する指定文化財を中心に紹介するもので、実際に文化財を見ながら広く多くの方々に読んでいただければ幸いです。

文化財ってなに？

利尻富士町には、「文化財」とよばれる財産が多くのこされています。しかし、わたしたちは、日常生活の中にあって、それらについてあまり深く意識せずに過ごしているのではないでしょうか？「文化財」というとなんだか古くて歴史があって、堅いイメージがあるからかもしれません。また、それらを実際に訪れたり、見たりする機会はそれほど多くないかもしれません。まして、遺跡のように地下にあるものは、なおさらでしょう。

そもそも「文化財」とはいったい何なのでしょう。一般的には、神社や寺などの古い建物や仏像、絵などが思い浮かびますが、そのほかに演劇や音楽、衣食住や年中行事などに関する風習、さらに地下に埋まっている遺跡なども含まれます。また、動物や植物などに代表される天然記念物もこの中に入ります。

「文化財」は、その価値や重要度によって、国・都道府県・市町村という3つのランクに分けられ指定されます。わがまちにも昭和54年に町指定された文化財が20件あります。これらは、ただ単にこのまちの成り立ちを映し、歴史に刻み込まれた先人の足跡や文化を伝えるだけでなく、わたしたちの現在の姿、そして、未来への足がかりを示す「道しるべ」にほかなりません。ぜひ、一度訪ね歩いてはいかがでしょうか？ここで紹介したものに限らず、新たな発見があるかもしれません。

文化財のいろいろ

【有形文化財】建物や絵画、彫刻、工芸品、古文書、考古資料など形のあるもの

【無形文化財】演劇や音楽、工芸品をつくる技術など形のないもの

【民俗文化財】衣食住や信仰、年中行事などで行われる風俗習慣、民俗芸能やそれに使われる道具や衣服など

【記　念　物】貝塚、古墳、城跡などの史跡や庭園、山・谷・海浜などの名勝地、動物、植物、地質鉱物などの天然記念物

【埋蔵文化財】地下に埋まっている遺跡（竪穴住居や土器、石器など）

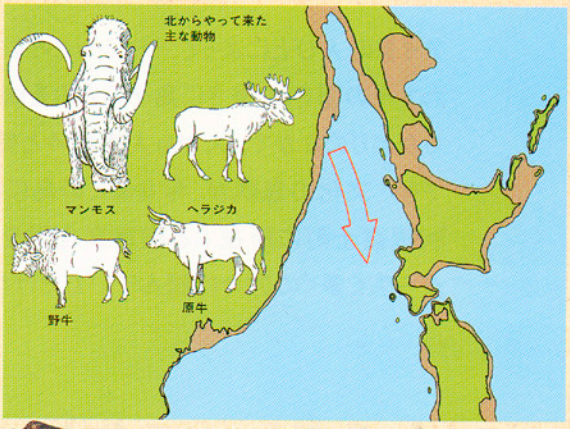
【文化財の保存技術】文化財を修理・修復するための伝統的技術

原始・古代の文化財（13,000年前～400年前）

①栄町キャンプ場遺跡 史跡

町内では、旧石器～擦文時代までの20カ所の遺跡が確認されています。利尻島で最初のヒトの痕跡は、鴛泊スキー場のふもとにある栄町キャンプ場遺跡で、今から約13,000年前にさかのぼる石器が昭和53年の発掘調査で発見されています。

旧石器時代とよばれるこの頃は、海水面が今よりも低い氷期にあたり、宗谷海峡がまだ陸地でした。北海道は、サハリンやアジア大陸とつながっていたため、北からヒトや動物が南下し、そこから北海道島を舞台とした人びとの生活が始まりました。



サハリンと陸続きだったころの北海道（『遺跡が語る北海道の歴史』より）

円筒土器（港町1遺跡）

鈴谷式土器（利尻富士町役場遺跡）

町内のそのほかの遺跡

サハリンと北海道の間に位置する利尻島は、大陸との接点を示すものが発見されることから、明治の初めから考古学者の関心をひく地域の1つでした。

なかでも利尻富士町役場遺跡は、町内で最初に本格的な調査がされました。今から約1,500年前の人びとが使った鈴谷式、オホーツク式とよばれる土器や石の矢じり、獲物を解体するためのナイフ、骨でつくられた道具、食用としたニシンやホッケ、アシカ、オットセイなどの骨が発見されました。また、石を並べた浅いくぼみ（燻製づくりなどに使う）もみつかり、この土地が生活の場であったことを裏付けました。

また利尻や礼文は、縄文時代から日本海を北上する対馬海流を通じて、道南や本州の日本海沿岸地域とモノのやりとりをする密接なつながりを持っていました。縄文時代中期に特徴的な円筒形の土器を出す港町1遺跡や野塚の遺跡群、縄文時代後期や続縄文時代に生活の場であった本泊や大磯の遺跡群、縄文時代から擦文時代まで生活の場であった沼浦の遺跡群などが代表的です。

利尻富士町役場遺跡から出土した土器や海獣骨

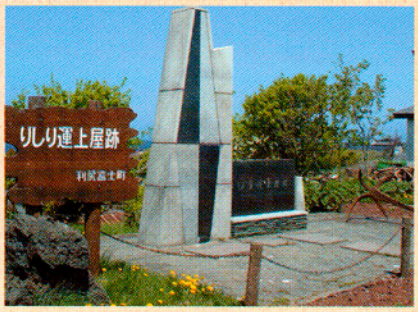
北海道のできごと　津軽海峡ができる　続縄文時代　オホーツク文化が根付く

日本のできごと　旧石器時代　紀元前1万年　縄文時代　0年　弥生時代　奈良時代　平安時代　鎌倉幕府が成立　1200年

近世の文化財（400年前～130年前）

②リイシリ運上屋跡（うんじょうやあと） 史跡

江戸時代に入ると、松前藩（まつまえ）は蝦夷地（えぞち：当時の北海道の呼び名）各地を「場所（ばしょ）」に分割し、アイヌとの間で海産物などの交易を始めました。当時、取引された利尻の産物としては、アワビ（干して串貝に）やナマコ（干してイリコに）、タラ（棒鱈）、ニシンなどがあげられます。

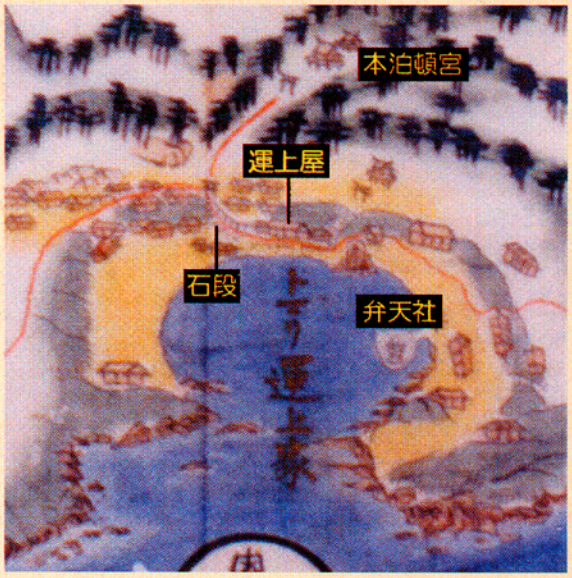


記念碑

今も残る石段

利尻・礼文を含めたリイシリ場所については、ソウヤ場所と同様、17世紀半ばまでには開設されていたと考えられています。

やがて、有力商人（場所請負人）に場所を請負わせ、税金（運上金）を納めさせる制度になると、リイシリ場所は明和2【1765】年に近江（おうみ）商人の岡田弥三右衛門（恵比須屋）が請負い、天然の港として恵まれた本泊に交易の拠点施設である運上屋が置かれました。現在、運上屋そのものは残っていませんが、その当時のようすが絵図に残されており、石段も往時を偲ばせます。その後、文政6【1823】年には、近江商人の藤野四郎兵衛（柏屋）に引き継がれ、明治2【1869】年に場所請負制度が廃止されるまで続きました。※（○○屋）とは屋号（やごう）を表わします。



150年前の本泊（利尻町立博物館所蔵「リイシリ嶌略図」より）

場所の経営形態

支配人／現地最高責任者	通辞／アイヌ語通訳
帳役／書記	番人／アイヌ使役の監督
和人の稼方	

③奥の院（おくのいん）（利意志理山大権現（りいしりやまだいごんげん）） 有形文化財

航海や漁業の安全と豊漁を願って、恵比須屋が場所を請負った明和2【1765】年に建立されたといわれていますが、詳しくは分かっていません。

現在では、柏屋の支配人阿部喜右衛門と住吉丸（柏屋の持船）船頭の清六が奉納した石灯ろう（文政8【1825】年）と支配人の阿部が奉納した手洗鉢（文政9年）と鳥居（文政10年）が残されています。また、慶応4【1868】年に奉納された「利意志理山大権現」の額も残されています。

※道々沿いの説明板のある入口から山側に2kmほど入った場所にあります。

社殿

奉納された額

アイヌの人びとが住む　リイシリ場所が設置される

1600年　江戸幕府が成立　享保の改革　1800年

④本泊頓宮鳥居（もとどまりとんぐうとりい） 有形文化財

神社は、柏屋の支配人阿部喜右衛門が、奥の院の頓宮（仮の宮を表す）として建立したといわれ、「利尻大権現」と刻まれた石鳥居は天保9【1838】年に阿部が奉納したものです。また、境内には天保10年に柏屋の船頭により奉納された石灯ろうも残されています。

石灯ろう

鳥居

⑤厳島神社（いつくしまじんじゃ） 有形文化財

文政年間【1818～1830】に弁天社（べんてん）（龍王社）として建立されたといわれています。文政13【1830】年に奥の院同様、支配人阿部喜右衛門と住吉丸船頭の清六によって寄進された鳥居が残されています。また、現在は紛失していますが、柏屋の船頭中より寄進された黄銅製釣灯ろうがありました。

現在の社殿は、昭和9年に合同漁業株式会社により修築されたもので、昭和47年、60年、62年にも一部補修しています。

鳥居と社殿

釣灯ろう

⑥⑦会津藩士の墓（あいづはんしのはか） 有形文化財

18世紀の終わりごろになると、鎖国下にあった日本に対してロシアから通商を求める動きが強くなってきます。文化4【1807】年、利尻島がロシア側の襲撃に遭い、商船などが焼き払われ島民が捕虜に捕られるなど、まさに「北の黒船事件」とも呼ぶべき事件が起こりました。

その動きに対し、翌文化5年、幕府は会津藩をはじめとする奥羽（おうう）諸藩に蝦夷地防備の出兵を命じます。会津藩の任地は松前、宗谷、利尻、樺太（からふと）（サハリン）で、総勢1,600名ほどの藩士が出陣しました。

利尻島には252名の藩士が派遣され警備にあたりましたが、ロシアとの交戦はなく3ヶ月ほどで任務を終えます。しかし、多くの藩士が警備中に水痘（すいとう）病にかかり命を落としました。また、樺太警備を終えた藩士を乗せた船7隻のうちの1隻である観勢（かんせい）丸が暴風雨に遭い、利尻島のリヤコタン（沓形～種富町の海岸）に漂着し沈没しました。

その時の死者を弔った墓碑が、町内では鴛泊ペシ岬（本浄寺より移設）と本泊慈教寺に3基ずつ、利尻町種富町に2基安置されています。それらのうちの4基が観勢丸の被害に遭った者たちです。墓碑はいずれも文化5年と刻まれており、新潟で石を刻み運んだといわれています。

また、稚内と焼尻島にも同様な墓碑が残されています。

鴛泊ペシ岬の墓碑（左から丹羽織之丞僕茂右衛門、渡部左右秀俊、樋口源太僕孫吉）

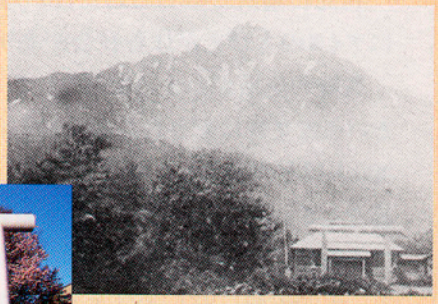
本泊慈教寺の墓碑（左から白石又右衛門僕宇兵衛、関場友吉春温、遠山登僕利助）

※僕＝しもべ。配下を表す。

⑧北見神社境内 有形文化財

文政8【1825】年、場所請負人の藤野喜兵衛が漁場を開くのに伴い建立されたといわれています。

明治32年には、鬼脇村の氏神として北見神社となり、明治43年村社になりました。大正5年にはそれまで登山道のそばにあったものを現在地へ遷宮しました。現在の社殿は、昭和46年に地域の有志により改築され、鬼脇地区の住民の拠となっています。



遷宮以前の神社

桜咲く境内

⑨ラナルド・マクドナルド渡島の地 史跡

ペリーの黒船来航の5年前にあたる嘉永元【1848】年7月、利尻島野塚にアメリカオレゴン州アストリア生まれのラナルド・マクドナルド(1824年生－1894年没)という青年が上陸しました。具体的な上陸地については、神社や番家に程近い野塚岬の東側の入り江が有力です。

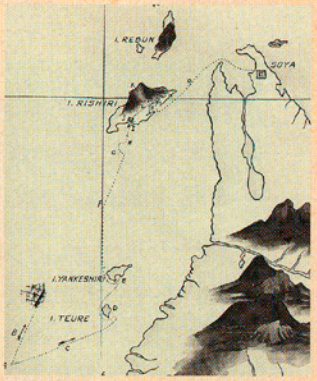
日本上陸の目的は、鎖国下にあった日本で日本語を覚え、開国した際に通訳になることでした。ハワイから捕鯨船に乗り、単身日本へ上陸することを試みた結果、焼尻島をへて利尻島で遭難を装い上陸しました。しかし、鎖国という厳しい情勢であったため、島での滞在は1ヵ月ほどで、その後宗谷・松前で2ヵ月拘束され長崎へと移送されました。

長崎では、監禁状態でしたが、翌年4月に日本を去るまでの7ヵ月間、オランダ語の通詞(通訳)であった森山栄之助(のちにペリー来航の際、通詞を務める)ら14名の要望により、英語を教えそして自らも日本語を学びました。

帰国後も、晩年に『日本回想記』を著すなど、日本に対する熱い思いを持ち続けていたようです。

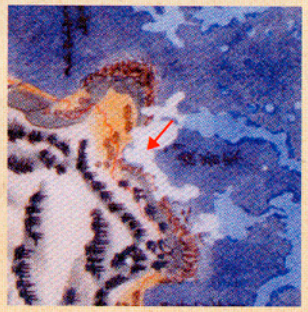
現在、野塚展望台には、マクドナルドの半生を描いた小説『海の祭礼』(吉村昭著)の文学碑と顕彰碑が建てられています。

ラナルド・マクドナルド
(『RANALD MacDONALD』より)



漂着ルート
(『RANALD MacDONALD』より)

長崎とアメリカオレゴン州に建てられた碑(利尻町立博物館より提供)



上陸地点(野塚)

顕彰碑と文学碑 (野塚展望台)

五稜郭築城　　蝦夷地を北海道に改称

1868年 明治維新　　1870年

アイヌの人びとの生活記録

利尻に場所が設けられた江戸時代、島にはすでにアイヌの人びとが住む社会がありました。

当時の生活がわかる記録としては、『津軽一統志』という古文書に記された寛文10【1670】年のもので、300人ほどが暮らし、場所を経営していた和人と交易をしていたことがわかっています。運上屋ができてからは、支配人が漁場経営のためにアイヌを使役し、その労働に対し手当を支給していました。文化3【1806】年には、天然痘の流行により37人に減少し、以降人口はほぼ横ばいで推移します。集落(コタン)は、変わらず運上屋の山手にありました。

明治に入ると、場所請負制廃止に伴う本州からの出稼ぎ漁民の台頭という開拓の波とともにその生活様式は変わっていったようです。

ヤマセカムイの碑（本泊）

アイヌの伝説碑として残されています。若いアイヌの夫が沖で遭難し、その帰りを信じ神に祈りながらその妻と子どもがヤマセ(東風)のたびに石になってしまったという物語です。カムイとはアイヌ語で神のことを指します。

他説では、ニシン漁が盛んな頃、ヤマセが吹けば出漁できないことから、ヤマセが吹かないようにと願いを込めて建立されたともいわれます。現在の石碑は、昭和28年に建てられたものです。

地名に読むアイヌ語

現在、島で使われている地名の多くはアイヌ語に通じるもので、その場所の地形や特徴をよくとらえています。利尻という島の名前もリイシリ【高い山のある島】に由来します。ここで、主な地名を見てみましょう。

ポロフンベ【大きいクジラ】対岸の礼文島にはフンベ(奮部)という地名があります。両島の間をクジラが回遊していたのでしょうか。

(ポン)トマリ(本泊)【(小さな)入江】
ポンモシリ【小さな島】
オスットマリ(鴛泊)【岬の根元にある入江】
シペシ(ペシ岬)【大きな崖】
リヤウシナイ(湾内)【越冬する沢】
オチュウシナイ(雄忠志内)【川尻にいつも潮流のある沢】
ニチントマリ(鰊泊)【林の崖下にある入江】
ヤムナイ(清川)【冷たい沢】
オンネワキ(鬼脇)【大きい住まい?】
アシリコタン(富士岬・金崎)【新しい村】
オトントマリ(大磯)・オタトマリ(沼浦)【砂浜のある入江】
メヌウショロ(南浜)【湧水池のあるところの湾】
チセホヲチ(仙法志)【小魚の多くいるところ】
マオヤニ(仙法志本町)【ハマナスの多いところ】
マタワッカ(沓形泉町)【冬も凍らない水のあるところ】
クツカンタ(沓形)【岩の多いその上のところ】
リヤコタン(種富町)【越冬する村】
タンネトンナイ(種富町)【長い沼のある沢】
ビヤコロ(新湊)【石の丘の多くあるところ】

ポロフンベ

明治時代のペシ岬
(当時は山が2つありました)

オタトマリ(沼浦)

近代の文化財（130年前～）

⑩利尻山神社境内（りしりやまじんじゃけいだい） 有形文化財

明治9年、村社に認可された利尻山神社（本泊頓宮）を、鴛泊の発展に伴い、本泊からご神体を現在地に遷座し、名実ともに鴛泊村の村社として格付けされたのが明治28年のことです。それまで、現在地には西野与一郎の私社がありました。

明治32年社殿が落成し、現在の社殿は平成12年に改修築されたものです。境内には、社殿のほかに、社務所、神輿庫（みこし）、手水舎（ちょうず）があり、明治30年、大正7年、昭和17年に奉納された石灯ろうや忠魂碑などがあります。例大祭は毎年7月1日に行われています。

参道と社殿

吉本善京筆の絵馬

大正時代の神社祭典

利尻山登山のはじまり

現在、多くの登山者が訪れる利尻山ですが、その歴史を紐解くと、古くは最上徳内（もがみとくない）や間宮林蔵（まみやりんぞう）など近世に活躍した探検家が登山を試みています。

明治に入ると、測量や観測、植物採集などで登山するケースが増加します。また、宗教登山として紀州の天野磯次郎という行者が、島民とともに、明治23年、現在の湾内地区から登山を試み、不動明王像を山頂（北峰）に安置しました。このとき3ヵ月をかけて切り開かれた登山道によって、いまの登山道の基礎が築かれたといえます。安置された不動明王（ふどうみょうおう）像や棟上札などは、現在大法寺に保管されています。

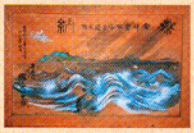
不動明王像

絵馬（えま）

町内の各神社には、多くの絵馬が奉納されています。利尻山神社には、幕末期に活躍した大坂の絵馬師である吉本善京（よしもとぜんきょう）により描かれた大型の絵馬が残されています。

また、明治以降、石崎神社や旭浜神社などを中心に、北前船（きたまえぶね）で運ばれてきたと考えられる弁財船などの船絵馬や武者絵をはじめ、遭難のようすを描いたものや漁師による手作りの絵馬も数多く残されています。とくに、船絵馬は航海安全を願ったもので、近代化とともにそのモチーフも明治30年頃までは弁財船であったものが、30年以降は写真や洋式帆船、大正以降の油絵や写真の蒸気船へと変化していきました。

武者絵（明治21年、石崎神社）



海難図（明治31年、石崎神社）

弁財船（明治15年、旭浜神社）

北海道のできごと	利尻郡各村戸長役場設置	利尻小学校開校
日本のできごと	1900年	関東大震災

⑪南浜獅子神楽（みなみはまししかぐら） 無形民俗文化財

明治の中ごろ、ニシン漁の栄華を夢見た富山県からの移住者によって南浜に持ち込まれた郷土芸能です。南浜の富士沼神社に奉納されてから昭和43年鬼脇の北見神社に移されるまで、南浜地区の芸能として根付いていました。

この神楽の構成は、囃子（はやし）方2名、笛数名、獅子は6名（頭役1、胴幕4、しっぽ1）、天狗2名（大天狗1、タラの頭でできた天狗面をつけた「まねこき」と呼ばれる道化役の小天狗1）です。獅子の幕を持って舞う百足（むかで）獅子の系統で、新湊市放生津（ほうじょうづ）が源流地と考えられています。舞は祈りから感謝の舞にいたる10種類で、豊漁を願う漁師町の舞としては数少ないものの1つです。

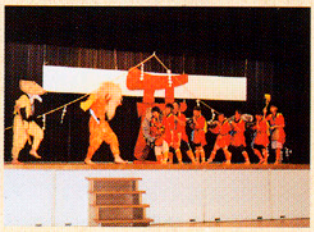
昭和43年に保存会が結成され、56年鬼脇青年団を中心とした若獅子会、そして57年には少年団が組織され、現在利尻小学校の教育活動の一環としても伝承されています。

昭和40年頃

初期に使われた
木製の獅子頭

2代目獅子頭

昭和11年鬼脇村青年団


利尻小学校児童による神楽

⑫金刀比羅神社（ことひらじんじゃ） 有形文化財

明治19年、八代市松の勧請により建立され、海運、漁業関係者の信仰の対象となっています。

八代は、兵庫出身で明治15年鬼脇に移住し、漁業と回漕業（船による荷物運送）を兼業していました。また、鬼脇村で明治26年に設けられた私設消防魁組（さきがけ）の組頭にも就いています。真立寺境内に大正2年建立の石碑が残されています。

八代市松と石碑

境内

⑬大澤寺鐘楼堂（だいたくじしょうろうどう） 有形文化財

大澤寺（曹洞宗）は、利尻島で最初に創建された寺院です。明治11年渡島した広澤覚道が布教を始め、14年に説教所を建立したことによります。絵図の本堂は明治23年に建立されたものです。

境内の左手にある鐘楼堂は、明治28年に綱島貞助、遠藤源蔵らの請願により建立された島で最も古い建造物です。

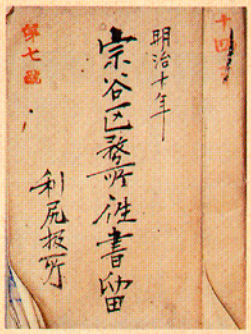
鐘楼堂

境内のようす
（明治30年『北海立志編』より）

⑭宗谷区務所往書留（そうやくむしょおうしょとめ） 古文書

明治に入ると、蝦夷地は北海道と改称されました。さらに細かく国郡が設定され、利尻島は北見国利尻郡となりました。明治9年には、北海道に大小区画が設定され、利尻郡は第28大区4小区に属し、鴛泊に利尻扱所（あつかいどころ）が置かれました。

この文書は、明治10年に開拓使（かいたくし）宗谷区務所と利尻扱所との間で取り交わされた公文書の控えつづりです。利尻島の行政のはじまりを物語る文書として最も古く貴重なものであり、郷土資料館に展示されています。



翌11年には、鴛泊、鬼脇、本泊、石崎、沓形、仙法志の6村になり、13年、鴛泊に利尻郡各村戸長役場が設置されました。

⑮桐山三四郎顕彰碑（きりやまさんしろうけんしょうひ） 有形文化財

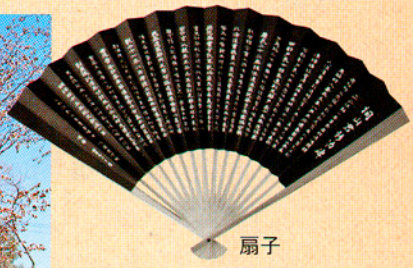
利尻島の開拓に数々の功績を残した桐山三四郎を讃え、明治45年に建立されました。

嘉永5【1852】年松前で生まれた桐山は、明治2年宗谷に出稼ぎに来て漁業に従事しました。8年には宗谷郡の総代となり、道北各村の戸長（今でいう町長）を歴任、14年に利尻郡各村戸長に就きました。さらに、20年に設置された宗谷警察署鬼脇分署の署長にもなり、22年に退職後はニシン建網漁業と海産物商を経営し、鬼脇村総代となりました。翌年、天塩北見漕運会社を設立、さらに利尻漁業組合の頭取にも就くなど、漁業や地域経済発展のために尽力しました。

また、医療や教育面では、15年公立鴛泊病院（17年に鬼脇に移され、公立利尻病院になる）、19年管内でいち早く利尻小学校を創立しました。

34年に第一期北海道会議員に当選、35年に行われた二級町村制施行による第1回鬼脇村村会議員にも当選しました。大正2年、療養先の京都で亡くなりました。

顕彰碑（桐山公園内）


扇子

桐山三四郎

⑯北海道三景の碑（ほっかいどうさんけいのひ） 有形文化財

大正12年、小樽新聞社が創立30周年と累号1万号を記念して北海道名勝地三景を決めるため読者投票を行いました。その結果、投票総数392万票中約56万票を得た利尻富士は第1位に輝き、その記念碑として翌年に北見神社境内に建立されました。そのほかの二景は、定山渓、洞爺湖が選ばれています。

絵はがき（小樽新聞社発行）

北海道三景の碑

各村合併し利尻町と東利尻村（のちに町）になる　ニシン不漁になる　沓形大火　札幌オリンピック　国立公園に指定される

1950年　高度経済成長　1980年

⑰綱島貞助顕彰碑（つなしまていすけけんしょうひ） 有形文化財

利尻島の水産業の発展改良や漁業組合の設立などの功績を残した綱島貞助を讃え、昭和2年北見神社境内に建立されました。

綱島は、天保11【1840】年、新潟県で生まれました。安政2【1855】年に福山の松村幸右衛門に仕え、明治4年には19名の漁夫とともに利尻島に出稼ぎ漁民として来島し、9年松村漁場の支配人になります。18年独立後、鬼脇で漁業に従事し、19年鬼脇に創設された利尻郡漁業組合の初代頭取となり、漁法や漁具の改善、ニシン・昆布製品の品質向上などに取り組みました。明治34年没。

顕彰碑

綱島貞助

さまざまな石碑（せきひ）

町内には、指定文化財以外にも多くの石碑が残されています。主なものでは、庚申塚（こうしん）や太平山三吉信仰（たいへいざんさんきち）、龍神信仰、聖徳太子(浄土真宗)などの民間信仰碑、各種記念碑、海難碑、句碑、個人顕彰碑などです。

庚申塚は、野塚から南浜にかけて5基みられ、秋田・青森出身者により信仰されたもので豊漁や家内安全を願ったといわれます。

三吉信仰は、秋田県の太平山に鎮座する太平山三吉神社に由来する勝利成功、事業繁栄を願うものです。秋田県移住者により故郷から受け継がれ、金崎・沼浦・南浜に三吉神社の石碑が残されています。

龍神信仰は、島全体にみられるもので、一般に海の神・漁の神として漁民に広く信仰されてきたものです。

海難碑は、明治から大正にかけて起きた海難事故による遭難者を弔ったものです。

記念碑では、各学校の開校百年や閉校記念、日清（にっしん）戦争、大正天皇即位、道路改良などに関係したものが残されています。個人顕彰碑は、主に明治から昭和初めにかけてのものがあり、鬼脇地区の社寺に多く建立されています。

利尻島にこれだけ多くの石碑がある背景には、石材を調達しやすいことと先人の強い信仰心や結びつきの強い地域社会があったからでしょう。

太平山三吉神社
（昭和7年、沼浦）

庚申
（明治44年、南浜）

第一美保丸遭難者の碑
（大正11年、大澤寺）

八大龍王
（昭和初期、妙海寺）

聖徳太子
（大正5年、慈教寺）

⑱利尻島郷土資料館（りしりとうきょうどしりょうかん） 有形文化財

大正２年に鬼脇村役場庁舎として新築され、昭和44年、鴛泊に新庁舎が建てられるまで使われました。同48年から郷土資料館として再活用され現在に至っています。

建物は木造平屋、寄棟屋根の形式をとり、建物正面のやや左寄りに玄関のある洋風庁舎です。また、屋根の棟の両端には矛（ほこ）状の棟飾り、玄関の上には鬼板（おにいた）が飾られています。

平成13～14年には全面的に補修を行いました。

大正11年（『鬼脇村勢一班』より）

利尻島郷土資料館

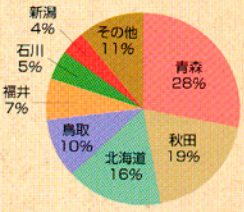
海のゴールドラッシュ

明治に入ると、島に新しい漁場を求めて、青森や秋田、遠くは鳥取などの日本海沿岸地域から出稼ぎ漁民がたくさん入ってきました。とくに、島内全域に漁場を持った松村幸右衛門（又一）などは代表的な漁業家です。明治末から昭和初めまで、島はニシン景気に沸き、北見神社にある明治期の句碑「押かける鰊の山や　神の幸」が示すとおり、最盛期で年間10万トンを水揚げすることもありました。ニシンはカズノコや身欠き、ニシン粕（畑の肥料）など余すところなく加工され、おもに関西・北陸方面へ運ばれました。

石碑

漁の安定から移住者が増え、大正期には17,000人ほどの人口を数え、市街地には旅館や料理屋、劇場、呉服屋などが立ち並ぶほどにぎわいをみせていました。

鬼脇村移住者の出身地（大正7年）



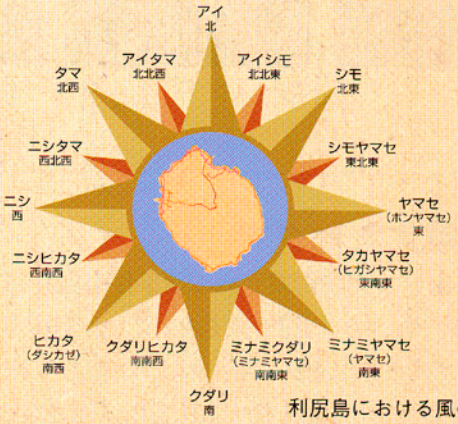
しかし、昭和28年頃を境にニシンも獲れなくなり、建物の建て替えや道路・護岸整備などにより当時の面影を偲ばせるような番屋、袋澗は、今ではほとんどみられません。

また、ニシン漁には“風”が深く関わっており、その吹く方向により独自の呼び名がありヤマセ（東風）やヒカタ（南西風）など今でもなじみのあるものもあります。

番屋（現高橋水産）

ニシン沖揚（昭和28年）

久連の袋澗（ふくろま：ニシンを入れた網袋を陸揚げする前に一時貯蔵するために石積みで囲った小さな港）
このほか鴛泊・仙法志に石積みが残っています。



利尻島における風の呼び方
※地域により多少呼び方が違います。

自然のなかの文化財

利尻島は、地理的・地形的な特徴から北海道のなかでも高山植物や野鳥などの宝庫として知られています。島の中央には、標高1,721mを誇る利尻山がそびえ、その裾野が1つの島を形づくっています。四季を通じてさまざまな表情をみせてくれる山は、まさに日本海に浮かぶランドマークといえます。

また、最北の離島の豊かな自然は、人びとを魅了してやまず、観光地としても脚光を浴びていることは言うまでもありません。戦後、昭和25年の道立公園指定を皮切りに、同40年に利尻礼文国定公園、同49年に利尻礼文サロベツ国立公園に指定されました。

しかし、近年、登山客増による登山道の崩落やトイレの問題、その他開発などにより失われつつある自然も少なくありません。島のあちこちに分布する動植物の1つ1つが、生きたミュージアムとしてわれわれの目を楽しませ心を和ませてくれる、こうした豊かな利尻の自然とこれからも共生していくことが大切です。

⑲沼浦湿原（ぬまうらしつげん）　⑳南浜湿原（みなみはましつげん）　天然記念物

沼浦湿原は、沼浦マールと呼ばれるオタトマリ沼と三日月沼を擁する島内一の面積をもつ湿原です。空から眺めると、マグマ水蒸気爆発というマグマと海水が混ざったことによりつくられた火口が2つ合わさった形をしており、その直径は1.5kmにもなります。

南浜湿原は、メヌショロ沼を取り囲む湿原で、6月にはワタスゲとヤマドリゼンマイが初夏の訪れを告げます。

両湿原とも、アカエゾマツとトドマツの群落と多くのミズゴケに覆われ、雪解けの時期から秋にかけてミズバショウやイソツツジ、エゾカンゾウ、アヤメ、サワギキョウなどが咲き誇ります。

晩秋のオタトマリ沼

イソツツジ

エゾカンゾウ

ザゼンソウ

ミズバショウが咲き誇る南浜湿原

海を越えたヒグマ

明治45年、今も語り継がれる珍事件が起こりました。北海道本島から約19kmを泳ぎ渡ってきたヒグマが旭浜で捕獲され、漁師らに斧で撲殺されたという話です。残された写真や新聞記事をみると、ヒグマはオスの成獣で背丈2.4m、体重300kgほどで、写真に収まった島民の表情からもその迫力と珍しさが読みとれます。

写真は、当時島で唯一の写真技師であった寺島豊次郎が撮影したものです。

捕らえられたヒグマ

利尻島のあゆみ

年代	本州の時代区分	日本のおもなできごと	北海道の時代区分	北海道のおもなできごと	利尻島でのできごと	利尻島にある遺跡とゆかりの文化財
2,500万						利尻富士温泉の源泉（深さ1,500m）
70万						
10万	旧石器	旧石器人が住み始める				
3万～					火山活動の開始	鴛泊ポン山、ペシ岬、ポンモシリ
2万		最終氷期（海面の低下）		津軽海峡ができる	溶岩ドームの形成	
1万3000			旧石器			オタトマリ沼（沼浦マール）の形成
1万	縄文 草創期	土器の使用始まる		旧石器人が住み始める	北海道と陸続きになる	ポン山（スコリア丘）の形成
6,000	早期			宗谷海峡ができる	旧石器人が住み始める	栄町キャンプ場遺跡
		貝塚がつくられる	縄文 早期	貝殻で文様をつけた土器が使用される	火山活動の終焉	
4,000	前期	気候の温暖化（海面の上昇）	前期		縄文人が住み始める 対馬海流が道北部まで到達する	利尻富士町役場遺跡
2,500	中期	気候の寒冷化（海面の低下）	中期	大きなムラがつくられる。円筒形土器の隆盛ストーンサークル・集合墓地がつくられる	円筒形土器が使われる	野塚遺跡 港町1遺跡 種富原野遺跡
1,500	後期		後期			本泊遺跡
1,000	晩期	東北に亀ヶ岡文化が広まる	晩期	亀ヶ岡文化の強い影響を受ける		野塚遺跡
紀元前						
紀元後0	弥生	稲作が始まる 邪馬台国	続縄文	鉄器の使用始まる		
	古墳	大和朝廷の統一 大化の改新	オホーツク	道北～オホーツク海沿岸にオホーツク文化が根付く	サハリンから鈴谷式土器が伝播	亦稚貝塚 利尻富士町役場遺跡
700						
800	古代 奈良	平城京に都を遷す		家の中にカマドが設けられる。ムギ・アワ・ヒエなどの栽培	オホーツク文化人が生活する 貝塚が多くつくられる	亦稚貝塚（クジラやクマを表現した骨製品、牙製婦人像） 種屯内遺跡
	平安	平安京に都を遷す	擦文			
	中世 鎌倉	鎌倉幕府が成立		オホーツク文化と本州の影響を受けた擦文文化の融合		沼浦海水浴場遺跡
1200	室町 安土 桃山			内耳鉄鍋・平地式住居の普及 チャシの築造		
1600	近世 江戸	江戸幕府が成立	アイヌ	1457 コシャマインの戦い	アイヌ人が生活する	1644蝦夷地図に利尻の記録
				商場知行制による交易 1669 シャクシャインの戦い	リイシリ場所が設置される 1696 朝鮮人李志恒ら漂着	1670津軽一統志にアイヌ人の記録
		享保の改革		場所請負制度の導入	1807 ロシア人の来襲 1808 会津藩士の警備 間宮林蔵来島し登山する	リイシリ運上屋跡 奥の院（利意志理山大権現） 会津藩士の墓
				1809 間宮林蔵、間宮海峡を発見	1834 今井八九郎利尻島を測量する 1846 松浦武四郎来島	厳島神社・本泊頓宮鳥居
		ペリー来航		1864 五稜郭築城	1848 ラナルド・マクドナルド来島	マクドナルド渡島の地
1868	近現代 明治	明治維新	近現代 明治	蝦夷地を北海道に改称 1871 廃藩置県（開拓使の管轄下に）	北見国利尻郡となる 1876 利尻扱所設置 1880 利尻郡各村戸長役場設置	宗谷区務所往書留 南浜獅子神楽
		日清戦争			1886 利尻小学校開校	
1925	大正 昭和	関東大震災	大正 昭和		ニシン・タラバガニ豊漁（カニ缶詰工場隆盛）	旧鬼脇村役場（現資料館）
		太平洋戦争			1957 各村合併し利尻町と東利尻村（のちに町）になる	
				ニシン不漁になる	1964 沓形大火	
		高度経済成長			1965 国定公園に指定される 1974 国立公園に指定される	1973 郷土資料館開館
				1972 札幌オリンピック 1983 大韓航空機墜落 1985 青函トンネル開通	1990 東利尻町から利尻富士町へ町名変更	1979 文化財20件を町指定
1989	平成	阪神大震災 地下鉄サリン事件	平成	1993 北海道南西沖地震	1993 小樽利礼航路廃止	

平成17年3月
発行：利尻富士町教育委員会
北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野6
TEL 01638-2-1370 FAX 01638-2-2376
E-mail : kyoui-shakyou@town.rishirifuji.hokkaido.jp
ホームページ：http://www.town.rishirifuji.hokkaido.jp/